

## 令和 5 年香美市議会定例会 6 月定例会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和 5 年香美市議会定例会 6 月定例会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方をご説明させていただきます。

まず、市政運営における 3 つのビジョンから、1 つ目の「人」づくり・人が輝く香美市」についてです。

季節も 6 月になりまして、新入職員や異動した職員も、職場に慣れてきたころだと思えます。政治姿勢として、これまでもお話をさせて頂いていることではありますが、私の仕事の中でもっとも重要なことは、職員それぞれが持つ能力を最大限に引き出し、合わせて、将来の香美市を担う人材育成を同時に行っていくということでもあります。

では職員の能力を最大限引き出すにはどうしたら良いでしょうか。私は、それぞれの職員が、どういった職員になりたいのか、どういった業務を通じて、市民に貢献したいのかという、公務員としての理想像を明確にしてもらうことが重要であると考えております。そのため、課長会の場や年末年始の職員向けメッセージなどを通じて、このことをしっかりと考えてもらうべく、繰り返し話をさせて頂いているところです。

今年度の具体的な取り組みとして、市議会からもご指摘いただいた「職員提案制度」を見直し活用していきたいと考えています。

私としましては、提案の質はもとより提案する職員の数にも注目し、自分の業務を俯瞰し、改善点を見つけれられる職員を 1 人でも多く増やして行ければと思っております。

そして、それぞれの職員が市民に貢献できる理想の姿を目指して、日々努力を重ねられるよう、市役所内のコミュニケーションづくり、学び合う意識の醸成、人材配置の方針などについて、幹部職員を交えて検討してまいります。

次に 2 つ目の「絆」づくり・多様な人と地域がつながる香美市」についてです。

今月 9 日から 12 日の日程で、姉妹都市である積丹町を訪問いたします。今年は、昨年中止となった、香美市・積丹町姉妹都市盟約調印式を開催し、合わせて「第 32 回 YOSAKOI ソーラン祭り」に 4 年ぶりに合同チームとして出場いたします。

この積丹町との交流については、今後も長く続けていくために、新たな取り組みが必要ではないかと考えています。同じ顔ぶれの市民、一部の職員だけが活動するのではなく、香美市にとって、意義ある取り組みにしなければなりません。このことは、福井県あわら市、フロリダ州ラーゴ市との交流も同様です。

今後、市民から意見を聞くなどして、新たな可能性について検討していきます。

また、香南市が姉妹都市である沖縄県八重瀬町と人事交流を行っていますが、香美市から積丹町やあわら市に職員を派遣することも、考えていきたいと思っております。

次に3つ目の「夢」づくり・新しい価値を創造する香美市」についてです。

この夢づくりについては、高知県の政策とも歩調を合わせ、香美市における「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の3つについて、一步一步進めてまいります。

まずデジタル化についてです。国においてはデジタル庁が創設され、県にはデジタル政策課、香南市には、新しく情報政策課が創設されました。香美市においては、これまで通り企画財政課の企画調整班で役割を担いますが、今年度より、取り組みを加速化したいと思っております。香美市役所の考え方は、全ての職員がこれからのデジタル社会の到来を見据え、それぞれの部署において、取り組むという方針です。

例えば、商工観光課であれば、デジタル関連企業の誘致、kamica を通じた地域経済の活性化、IT 技術を活用した観光振興について考えなければなりません。また例えば農林課においては、データを活用して栽培技術・経営の最適化を目指す「データ駆動型農業」、ドローンや航空レーザ測量などを活用したスマート林業など、新たな技術についての理解が必要です。このようにそれぞれの部署が、自分の課には関係がないというのではなく、意識的に学ばなければ、新たな時代に乗り遅れてしまいます。

また今年度、特に重要な取り組みとして指示しているのが、市役所内の業務を、デジタル化によって効率化させることです。チャット GPT という新たな技術が、行政の分野でも話題となっていますが、私としましては業務の効率化につながるのであれば、今後国等から発出される生成 AI に関するガイドライン等を踏まえ、個人情報などの情報管理の徹底を前提とした上で、積極的に導入を検討すべきであると考えております。企画調整班を司令塔として、行政手続のオンライン化、RPA による行政事務の自動化など、スピード感を持って取り組んでまいります。

次にグリーン化についてです。

昨年度に、しっかりとご説明すべきではありましたが、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を本日ここに改めて表明させていただきます。令和4年3月に「香美市地球温暖化対策地域推進計画における削減目標の改定」を行い、長期目標として、2050年度までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、この目標を実現させるべく取り組んでいくことを明記しております。

全国では757番目、県内市町村では、四万十市、宿毛市、南国市、高知市、黒潮町、本山町、梶原町、日高村、いの町に続く10番目の表明となります。

参考

<https://www.env.go.jp/policy/zerocarbon.html>

グリーン化については、先人から受け継いだ豊富な森林資源を今後とも管理して、CO<sub>2</sub>を吸収すると同時に、香美市産材を、市の住宅建設時に利用してもらい取り組みを、さらに推し進めてまいります。

特に、香美市木材住宅支援事業・香美ingウッドの取り組みについては、近年、香美市内の大工・工務店が、市内で製材された木材を使って、満額の2百万円を利用する事例が減少傾向であることから、改めて市内での木の循環を生み出し、パワーアップさせたいと考えております。

また「CLTで地方創生を実現する首長連合」にも昨年度加入しており、「都市の脱炭素化」という国レベルのビジョンに向けても、香美市として一翼を担うべく、情報収集してまいります。

次に、グローバル化についてです。

グローバル化については、農業における技能実習生、高知工科大学の留学生、また市内観光地への観光客など、香美市に定住したり訪れたりする外国人の数は、着実に増えてきております。香美市としましても、このことにつきまして対応していかなければなりません。

教育の分野ではいち早く、外国人講師を多く採用し、外国の学校とも積極的に交流をするなど取り組んでおります。また今年度姉妹都市であるラーゴ高校に、短期留学する山田高校の生徒さんへの補助として、香美市国際交流協会へ、1人6万円×10人分の予算を、計上させて頂いているところです。

また2年後の2025年4月に開催される関西万博に向けて、県とも連携して外国人観光客を香美市にも呼び込むべく、検討しなければなりません。

今年度、香美市におけるグローバル化について、どういった体制で、どのような施策が必要か、他の自治体の事例も参考に検討してまいります。

次に、「5つの基本政策と4つの横断的な政策に基づく香美市づくり」についてです。

最初に、基本政策の1つ目、経済の活性化についてであります。

先月、新型コロナウイルス感染症について、感染症法上の分類が「5類」となりました。このことによりまして、高知県経済も着実に活気を取り戻しつつあります。

龍河洞やアンパンマンミュージアムへの観光客も、着実に増加し、懇親会の場も増えてきました。香美市で作られているお酒の売上も増加していくことを願っているところです。

香美市には、日本酒メーカーが2つありますが、その2社が先月発表された全国新酒鑑評会にて、アリサワの「文佳人」が金賞、松尾酒造「山田太鼓 大吟醸」が入選となりました。文佳人は10年連続入賞の快挙です。

また、4月15日には、高知カンパーニュブルワリーの醸造所併設のビアスタンドが、香北町橋川野にオープンしました。TOSACOの販売にも弾みがつくことと思います。

県内の自治体で、3社もの酒造メーカーを持つのは香美市だけであり、私としましては、3社のお酒を、ふるさと納税でPRするなど、積極的に応援してまいります。

次に基本政策2つ目の健康長寿の香美市づくりです。

今年度は、第3期香美市健康増進計画・第2期香美市食育推進計画・第1期香美市自殺対策計画の最終年となり、新たな計画を立てる年となっております。

コロナ禍の3年間について、香美市の健康づくり婦人会や食生活改善推進協議会などにお聞きをすると、十分な活動ができなかったというお声がありました。

こういった団体の声をしっかりと把握した上で、新たな計画を立てたいと考えております。また今年度も「健康づくりのための地域活動事業」として、香美市民で組織する団体への補助制度を開始しておりますので、関係団体に、コロナ後としての積極的な活動を呼びかけ、市民の健康づくりに取り組んでまいります。

また、第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画も最終年となり、新たに計画を立てる年となっております。

地域の特性に応じた介護サービス提供体制の整備等の推進や、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組、介護人材確保及び介護現場の生産性向上について、今後も取り組んでまいります。

次に基本政策3つ目の教育の充実です。

私としましては、本年度も「郷土を愛し未来を拓く」人が育つ教育の実現を図り、香美市の町づくりに参画・貢献する人づくりを皆様方と共に進めてまいります。

特に、物部町の活性化につきましては、引き続き力を入れてまいります。物部町におきましては、今後も大栃小中学校の児童・生徒数の減少が見込まれることから、本年度より特認校制度の導入を行い3名の生徒が大栃中学校に編入学あるいは入学するなど明るい話も出てきております。また、来年度からスタートする大栃中学校の山村留学生の受け入れに向けて、生徒募集や運営など、教育委員会・学校におきまして、地域の皆さん方と共に準備を進めているところです。

今後は、空き家対策や子育て支援・観光資源の活用などにおいて積極的に取り組んでまいります。

次に、基本政策4つ目の市民を守る災害対策についてです。

今年度より、防災対策課に消防職員から1名、職員が加わっています。この人事異動の目的は、市民の生命と財産を守るための体制を強化することで、特に訓練の質を向上させたいという狙いを持っております。そして明日の3日には、その職員が企画して、防災訓練を行います。

これから梅雨の時期となり、昨年と違って、雨量も増えるのではと個人的に予想をしておりますが、昨年度の台風時の経験を踏まえ、市民の生命と財産を守るための体制強化について取り組んでまいります。

また補正予算に、常備消防費として、消防学校入校のための予算を計上させて頂いております。これは当初予算で、3名の新規採用として予算計上していたものを4名にしたことによるものです。令和4年度に新規消防職員が採用できなかったこと。加えてコロナ禍による負担増も合わせて考え、人員増が必要と判断いたしました。

一方で、今年度の体制を見れば、市長部局への1名の異動があったことから、昨年度よりも、人員的には厳しくなり、現場の職員には負担をかけることとなっており、申し訳なく思っているところです。過度な負担になっていないかなど消防署職員の状況を把握することに努め、香美市民の安心と安全を確保すべく取り組んでまいります。

最後に基本政策5つ目のインフラの充実と有効活用です。

まず補正予算につきましては、国の内示額が決定したことにより工事費が減額となったものです。予算減となった道路につきましても、粘り強く国に必要性を説明し、予算の確保に努めてまいります。

次に都市計画についてです。先月29日に、高知広域都市計画協議会が開催されました。この会は、高知市長、南国市長、いの町長、そして香美市長と、高知広域都市計画を構成する3市1町に県を加えたメンバーで話し合われました。

目的は、香美市でも長らく課題となっております高知広域都市計画区域について協議することです。私からは、片地小学校の児童数減少を事例として、問題提起させて頂きました。

ここ10年の小学校の児童数を見てみると、2014年の片地小学校の生徒数84名に対して、2023年は、49名と10年で35名減となっています。同じく、大栃小学校は、51名から16名とやはり35名減。香美市で一番増加したのが楠目小学校で、146名から226名へと80名増となっております。

楠目小学校は、校区内に市街化区域が含まれており、片地小学校の校区には、市街化区域がありません。隣り合った校区にも関わらず、このように大きな差が生まれるのは、都市計画の影響が少なからずあると思います。

この協議会は、8月にもう一度開催され、10月に地区計画策定指針の見直しについての改定案を決定する予定です。

私としましては、地区計画策定指針の見直しにより、片地小学校の顕著な生徒減など、高知県の課題を解決すべく、県や2市1町と議論を深めてまいります。

続いて、4つの横断的な政策についてです。

1つ目は、親しまれ信頼される行政窓口への継続的な改善です。

このことにつきましては、冒頭にも述べた通り、市役所全ての職員が、住民目線を意識して、日々の業務を遂行することが大切です。

住民目線に立って、分かりやすい文章を示して、住民に事業を説明することができればと考えています。

また新採職員や、民間企業を経験している職員には、先入観なしに業務を見てもらえるのではと期待もしており、職員提案制度も活用するなどして、業務改善に今後とも努めてまいります。

2つ目は、中山間対策の充実・強化です。

先月27日に香美猟友会の皆さんと意見交換をさせていただきました。中山間地域の生活を守るために、鳥獣対策でご尽力頂いている猟友会の皆様方には、心から感謝申し上げます。

その中で、猟友会会員の高齢化の話が出て、新規の狩猟者を獲得するべく、香美市狩猟フォーラムを再開して頂きたいとの要望を頂きましたので、今後開催時期等も含めて、関係機関と協議していきたいと考えています。

鳥獣捕獲の人員確保については、全国の課題でもあらうと思いますので、国への政策提言も視野に、県の鳥獣対策課、高知県猟友会とも意見交換していきたいと思います。

3つ目は、こども施策の充実と女性活躍の場の拡大です。

先月の臨時議会でも、ご説明いたしました。現在、子育て世帯生活支援特別給付金を迅速に支給すべく、準備をしているところです。また、高知県知事・市長意見交換会が、「人口減少対策と地域共生社会の実現について」というテーマで、7月5日に開催されますが、私としましては、国への子ども予算拡充について、県・市町村がしっかりと国に要望することが重要であるということについて事前アンケートで述べさせていただきました。

併せて、持続可能な地域共生社会を実現させるためには、地域の未来そのものである小中・高等学校を存続する必要があり、移住政策により子育て世代を呼び込む際の指標として、教育指標の質の充実を図ることも重要な視点であると考えています。

香美市の小中学校の児童・生徒の学力状況は全国水準を堅持しており、本年度山田高等学校においては、グローバル探究科卒業生の 93.3%が国公立大学に進学するといった成果も出ております。

香美市においては、保育園、幼稚園から大学までの教育機関がそろそろ学園の町としての強みを活かし、学力保障のための金銭的メリットを出すことも含め、家庭への支援ができないか、引き続き検討していきたいと思っております。また同様の主旨で高知県からの補助制度も検討頂くべく、要望もしていきたいと思っております。

次に女性活躍の場の拡大ということに関して、香美市の女性幹部職員の割合を一つの指標と捉え、現状をご報告します。

香美市の女性幹部職員の割合が高いのか低いのかについて、高知県庁と比べることでご説明しますと、県庁 HP で公開されている令和 5 年度人事異動についての知事談話によれば、知事部局における管理職に占める女性の割合は、17.9%とのこと。ここでいう管理職とは、1 等級の職員ということになります。

香美市においては、課長会メンバーとして比較したいと思いますが、香美市における課長会メンバー 27 人のうち、女性 10 人で比率は 37%と、県庁と比較しても、遜色ない数字となっております。

しかし私としましては、女性職員がその能力を最大限発揮できているかということ、まだまだであるとも思っております。女性職員の意見も聞きながら、香美市役所として更なる女性活躍の場の拡大について取り組んでまいります。

最後に 4 つ目の文化芸術とスポーツの振興です。

今月 6 日に、全国市長会に参加するため上京するのですが、その中で、全国市長会の機関誌「市政」の 7 月号で「アニメ・漫画を生かした地域づくり」ということで、「ラブライブ！サンサイン！！」の沼津市、「手塚治虫記念館」の宝塚市、ゲゲゲの鬼太郎「水木しげる記念館」の境港市の 3 市長とともに、市長座談会メンバーとして香美市も呼んで頂きました。私自身、アニメ・漫画を生かした地域づくりという視点で、他の自治体と意見交換することははじめてですが、ご一緒する 3 市からも刺激を受け、この座談会を契機に、何かコラボレーションができないかと楽しみにしているところです。

また、吉井勇記念館では、開館 20 周年記念企画展「吉井勇と棟方志功」が明後日の 4 日まで開催中で、期間中の来場者が、6 月 1 日現在で、913 人と、多くのお客様に来場頂きました。



この企画展の次の策として、記念切手の発行準備をしております。目玉は、「文豪とアルケミスト」という今年 7 周年を迎えるゲームとのコラボレーションです。このゲームキャラとしてのイケメン吉井勇を、切手シートの中に入れる予定で、このことにより、ゲームに親しんでいる若い世代に、記念館を知ってもらおうという狙いです。

今後は香美市の文化芸術という視点に、アニメ・漫画・ゲームといった要素も新たに加えて、香美市の魅力向上に努めてまいります。

以上、5つの基本政策と4つの横断的な政策についてご説明させて頂きました。